



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

芦名, 定道

CITATION:

芦名, 定道. あとがき. アジア・キリスト教・多元性 2012, 10: 124-124

ISSUE DATE:

2012-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/154766>

RIGHT:

◆『アジア・キリスト教・多元性』第10号をお届けいたします。

本研究雑誌は、「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」研究会（略称、「アジアと多元性」研究会）の研究活動報告論文集として刊行され、本号で10号という大きな区切りを迎えることができました。10年の間、継続的に雑誌が刊行できたことについて、今回論文を執筆いただいた方々、またほかの研究会メンバーの方々に、この場を借りて、お礼を申し上げたいと思います。すでにご存じのように、本研究論文集は創刊号より、基本的に電子ジャーナルとして刊行され——必要部数に限り、冊子体での刊行も行っていますが——、現在は、研究会のホームページにおいて公開されるとともに、2008年度からは、京都大学学術情報リポジトリにも、登録されています。

◆2011年度の研究会の活動の詳細については、本号の「研究会の活動内容（2011年度）」あるいは研究会のホームページに記載された通りですが、例年通り、毎月一回、研究会メンバーによる研究発表会が行われました。今年度も、特に統一テーマは設定せずに、発表者がそれぞれの専門に関わる研究発表を行いました。結果として、研究発表の内容はかなり多様なものになりましたが、今後は、研究会全体の研究成果を研究論集という形で刊行することも念頭において、より統一的なテーマにも取り組みたいと考えています。たとえば、キリシタン研究や無教会研究といったテーマを軸にして、共同研究に近い企画も可能かもしれません。研究会メンバーからの積極的な提案を期待しております。

◆2011年度は、何人かの新しい方にメンバーとして加わっていただきましたが、今後も「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」というテーマに関心のある方々を迎え、さらに活発な研究会にして行きたいと思います。今後の研究会については、研究会としての形をさらに整えることが課題になるかもしれません。現在は、京都大学キリスト教学研究室での月一回の研究発表会と年度末の雑誌の刊行が主なる活動ですが、この活動を安定的なものとし、持続的に展開するには、研究会メンバー以外の研究者を招いた講演会やシンポジウムの実施、あるいは共同のフィールド調査や研修会の企画など、様々な新しい試みを積極的に行うことが必要となるのではないのでしょうか。こうした活動を進めるには、事務局の体制を整え、また活動のために年会費を設定することも視野に入れなければなりません。研究会という現在の形態を生かして、できるだけ柔軟で小回りのきく形に行きたいとは思いますが、本研究会も活動開始から10年を経たところで、将来を展望する時期にさしかかりつつあるように感じています。すでに一定の結論が出ているわけでも、またいつまでに結論を出さねばならないというわけでもありませんが、少しずつ問題意識を共有しつつ、本研究会にふさわしい方向を見出したいと思います。

◆本研究会は、当面は2012年度も、「東アジアのキリスト教」についての歴史的思想史的観点からの研究と、「宗教的多元性」についての理論的な研究とを軸にしつつ、多様な問題連関を結びつけながら、研究活動を進めてゆく予定です。アジアと日本のキリスト教、宗教的多元性といったテーマに関心のある方は、ぜひわたしたちの研究会にご参加ください。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。

2012年3月

研究会代表
芦名 定道